

5/7/1

DIALOG(R) File 351:Derwent WPI
(c) 2005 Thomson Derwent. All rts. reserv.

010379507 **Image available**
WPI Acc No: 1995-280821/*199537*

Eye make-up - contg. fibre surface-treated with perfluoro-alkyl phosphoric ester di-ethanol amine salt.

Patent Assignee: KOSE KK (KOSE-N)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 002

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 7179323	A	19950718	JP 93307306	A	19931112	199537 B
JP 3409192	B2	20030526	JP 93307306	A	19931112	200335

Priority Applications (No Type Date): JP 93307306 A 19931112

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan Pg	Main IPC	Filing Notes
-----------	------	--------	----------	--------------

JP 7179323	A	E	6	A61K-007/032
------------	---	---	---	--------------

JP 3409192	B2	5	A61K-007/032	Previous Publ. patent JP 7179323
------------	----	---	--------------	----------------------------------

Abstract (Basic): JP 7179323 A

Surface of fibre is treated by a fluorine cpd . The fluorine cpd is one or more perfluoroalkyl phosphoric acid ester diethanol amine salt of formula (I).

The fibre is 1-7 denier and 0.5-5 mm, pref. 1-3 mm long.

USE - Used as eye make-up.

ADVANTAGE - The material has a good fibre dispersibility. The fibre is uniformly attached to the eyelashes and eyebrows.

Derwent Class: D21; E11

International Patent Class (Main): A61K-007/032

International Patent Class (Additional): A61K-007/02

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-179323

(43) 公開日 平成7年(1995)7月18日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

府内整理番号

F I

技術表示箇所

A 61 K 7/032

7/02

P

審査請求 未請求 請求項の数5 FD (全5頁)

(21) 出願番号

特願平5-307306

(22) 出願日

平成5年(1993)11月12日

(71) 出願人

000145862
株式会社コーセー

東京都中央区日本橋3丁目6番2号

(72) 発明者

伊藤 利之
東京都北区柴町48番18号 株式会社コーセー

一研究所内

(72) 発明者

横山 弘
東京都北区柴町48番18号 株式会社コーセー

一研究所内

(54) 【発明の名称】 アイメークアップ化粧料

(57) 【要約】

【構成】 一般式(1)もしくは(2)で表されるフッ素化合物により表面を処理した、太さが1~7デニール、

長さが0.5~5mmの繊維0.01~10重量%を含有することを特徴とするアイメークアップ化粧料。

【化1】



(nは6~18の整数、mは1又は2を示す。)

【化2】

(aは1~12の整数、bは1~5の整数、Xは同一又は異なって、アルコキシ基、ハロゲン原子又はアルキル基を示す。ただし、すべてのXがアルキル基の場合を除

<。>

【効果】 繊維の分散性が向上し、その繊維を配合したアイメークアップ化粧料は瞼及び眉毛への繊維の付着均一性が向上し、繊維の束付きや枝分かれ状の付着などの現象が改善される。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 フッ素化合物により表面を処理した繊維を含有することを特徴とするアイメークアップ化粧料。

【請求項2】 繊維の太さが1～7デニール、長さが0.5～5mmの範囲である請求項1記載のアイメークアップ化粧料。



(式中、nは6～18の整数を示し、mは1又は2を示す。) で表されるパーカルオロアルキルリン酸エステルジエタノールアミン塩から選ばれる化合物の1種又は2種以上である、請求項1から3の何れか1項に記載のアイメークアップ化粧料。

【請求項5】 フッ素化合物が次の一般式(2)

【化2】

(式中、 $C_nF_{2n+1}(CH_2)_b$ は(2)の整数を示し、Xは同一又は異なって、アルコキシ基、ハロゲン原子又はアルキル基を示す。ただし、すべてのXがアルキル基の場合を除く。) で表されるパーカルオロアルキルシランから選ばれる化合物の1種又は2種以上である、請求項1から3の何れか1項に記載のアイメークアップ化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、製品中の繊維の分散性に優れ、瞼及び眉毛へ繊維が束付きしたり枝分かれ状に付着することのない、均一な付着性を有する瞼用及び/又は眉毛用のアイメークアップ化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、瞼用、眉毛用のアイメークアップ化粧料は瞼や眉毛の形を整えてより美しくみせるために用いられており、求められる機能としては、瞼のカール力、瞼及び眉毛のロングラッシュ感、ボリューム感のアップ等が挙げられる。これらの機能を満たすために種々



(式中、nは6～18の整数を示し、mは1又は2を示す。) で表されるパーカルオロアルキルリン酸エステルジエタノールアミン塩(旭硝子(株)製、アサヒガードAG530等)、一般式(2)

【化4】

(式中、 $C_nF_{2n+1}(CH_2)_b$ は(2)の整数を示し、Xは同一又は異なって、アルコキシ基、ハロゲン原子又はアルキル基を示す。ただし、すべてのXがアルキル基の場合を除く。) で表されるパーカルオロアルキルシラン(LS-160、LS-360、LS-91

【請求項3】 繊維の太さが1～7デニール、長さが1～3mmの範囲である請求項1記載のアイメークアップ化粧料。

【請求項4】 フッ素化合物が次の一般式(1)

【化1】

$$(C_nF_{2n+1}CH_2CH_2O)_m - P - [OH \cdot NH(CH_2CH_2OH)_2]_{3-n} \quad (1)$$

の原料が配合され、カール感やボリューム感を出すためにワックス成分や皮膜形成剤が多く配合されたり、ボリューム感やロングラッシュ感を出すために繊維が配合されることがある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、用いられる繊維は製品系での分散性が悪く、瞼や眉毛につけたとき繊維が不均一でなおかつ瞼や眉毛に沿って付着せず、枝分かれ状に付着したり瞼や眉毛の上で束付きするなど、外観上の美しさが損なわれてきた。そのため、繊維の分散性を向上させる目的で界面活性剤等を配合し、その改善が試みられてきたが、その効果は充分とは言えなかった。

【0004】

【課題を解決するための手段】かかる事情に鑑み、本発明者らは上記課題を解決するために鋭意研究を行った結果、フッ素化合物で繊維の表面を処理し繊維の分散性を向上させ、その繊維を配合することによって、繊維が瞼や眉毛に均一かつ毛の方向に沿って付着し、束付きや枝分かれ状の付着などを抑えるという優れた性質が得られることを見いだし本発明を完成させた。

【0005】 即ち、本発明は、フッ素化合物により表面を処理した繊維を含有することを特徴とするアイメークアップ化粧料を提供するものである。

【0006】 本発明で用いられるフッ素化合物は、例えば次の一般式(1)

【化3】

$$(C_nF_{2n+1}CH_2CH_2O)_m - P - [OH \cdot NH(CH_2CH_2OH)_2]_{3-n} \quad (1)$$

2, LS-1080, LS-1090, LS-1465
(以上、信越化学工業(株)製)、XC95-418,
XC95-466, XC95-467, XC95-468, XC95-469, XC95-470, XC95-471, XC95-472 (以上、東芝シリコーン(株)製)等が挙げられる。

【0007】 処理される繊維としては、ナイロン、ポリエチレン等の合成繊維、レーヨン等の人造繊維、セルロース等の天然繊維、アセテート人絹等の半合成繊維、等が挙げられるが、通常化粧品に用いられるものならば、何等これらに限定されるものではない。

【0008】纖維の太さについては1～7デニール（以下Dと記す）が好ましい。纖維の長さについては0.5～5mmが好ましく、1～3mmがより好ましい。これらの纖維は材質、太さ又は長さにおいて1種又は2種以上を組み合わせて用いることができる。

【0009】これらの纖維をフッ素化合物で処理する方法は、特に限定されないが、例えばフッ素化合物をアセトン、トルエン等の有機溶媒に加熱溶解せしめ、その中に纖維の1種又は2種以上の混合物を加え、攪拌後溶媒を留去して纖維上にフッ素化合物を被覆又は付着させ、場合によっては更に焼き付け処理をする方法がある。

【0010】又、フッ素化合物にアルキルリン酸ジエタノールアミン塩を用いる場合には、同様の纖維に水を加えてスラリー状とし、一方アルキルリン酸エステルジエタノールアミン塩を水に加え攪拌して0.1～5重量%

（以下%と記す）のエマルジョン状態としたものを、前記スラリーに徐々に注加、混合した後酸性とし、常温又は高温静置などによってエマルジョンを破壊して洗浄、ろ過、乾燥すれば良い。尚、フッ素化合物の処理量は、その種類によっても異なるが纖維の0.1～50%，特

に0.5～20%が好ましい。

【0011】本発明においてフッ素化合物により処理された纖維の配合量は、纖維の種類によっても異なるが、好ましくは0.01～10%，より好ましくは0.1～5%配合される。

【0012】又、本発明の効果を損なわない範囲で、通常アイマークアップ化粧料に用いられる粉体や、固形、液状又はペースト状の油剤、ゲル化剤、エマルジョンポリマー、界面活性剤、多価アルコール、紫外線吸収剤、美容成分、グリコール類、水溶性成分、樹脂、防腐剤、香料等を配合することができる。

【0013】

【実施例】以下に実施例を挙げて、更に説明する。なお、これらは本発明を何ら限定するものではない。

【0014】実施例1～3及び比較例1～3

表1に示す処方の皮膜タイプマスカラを調製し、纖維の分散性、纖維の付着均一性、使用時の使用感、効果の持続性等について評価した。その結果を表2に示す。

【0015】

【表1】

(組成)	実施例			比較例		
	1	2	3	1	2	3
(1) ポリアクリル酸エステルエマルジョン	50	50	50	50	50	50
(2) ポリメタクリル酸	2	2	2	2	2	2
(3) トリエタノールアミン	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
(4) プチレングリコール	3	3	3	3	3	3
(5) 塩化ナトリウム	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
(6) 防腐剤	適量	適量	適量	適量	適量	適量
(7) シリカ	2	2	2	2	2	2
(8) 鉱料	10	10	10	10	10	10
(9) 香料	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
(10) アサヒガード5%処理ナイロン纖維(1.5D, 1mm) (注1)	10	5	1	—	—	—
(11) ナイロン纖維(1.5D, 1mm)	—	—	—	10	5	1
(12) 精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量

注1：アサヒガード5%処理にはアサヒガードAG580を使用

【0016】（製法）

- (2)～(6)及び(12)を混合し加熱溶解する。
- Aに(7)～(8)及び(10)～(11)を加え、均一に分散する。
- Bに(1)～(9)を加え、混合し、均質にする。
- Cを容器に充填して、製品とする。

【0017】（分散性の評価）

ガラス板にドクターブレードを用いて皮膜タイプマスカラの薄膜を引き、乾燥後、凝集物の有無により判断した。

判定

全くなし	◎
ややある	○
ある	△
非常にある	×

【0018】 (壁へのなじみやすさ、纖維の付着均一性、使用時の使用感、耐水耐油性、効果の持続性の評価) 実施例2及び比較例2のマスカラについて、女性パネル20名による使用テストを行い、下記基準により評価した。

判定

平均点	2. 5点以上 2. 0点以上2. 5点未満 1. 5点以上2. 0点未満 1. 5点未満	◎ ○ △ ×
-----	--	------------------

【0019】

【表2】

(評価項目)	実施例			比較例		
	1	2	3	1	2	3
纖維の分散性	○	○	○	×	×	△
壁へのなじみやすさ	○	○	○	△	△	△
纖維の付着均一性	○	○	○	×	×	×
使用時の使用感	○	○	○	×	△	△
耐水耐油性	○	○	○	○	○	○
効果の持続性	○	○	○	○	○	○

【0020】表2から明らかなように、アサヒガード5%処理ナイロン纖維を配合した本発明のマスカラは比較例と比べ、纖維の分散性、使用時の使用感、纖維の付着

均一性において特に優れたものであり、製品の品質として比較例より優れていることが実証された。

【0021】

実施例4 乳化皮膜タイプマスカラ

(处方)	(重量%)
(1) ステアリン酸	2
(2) ミツロウ	8
(3) セタノール	1
(4) モノオレイン酸ポリオキシエチレンソルビタン (20E.O.)	0.8
(5) セスキオレイン酸ソルビタン	0.4
(6) 頽料	1.5
(7) トリエタノールアミン	1
(8) 防腐剤	適量
(9) アサヒガード5%処理ナイロン纖維 (2D、1.5mm)	3
(注1)	
(10) ポリアクリル酸エステルエマルジョン	40
(11) 香料	適量
(12) 精製水	残量

(注1) : 前記と同じ

C. AにBを加え、乳化し、冷却後、(11)を加える。

【0022】(製法)

D. Cを容器に充填して、製品とする。

A. (1)～(5)を加熱溶解後、(6)を加えて均一分散する。

【0023】

B. (7)～(10)及び(12)を加熱混合する。

実施例5 溶剤タイプマスカラ

(处方)	(重量%)
(1) デンブン脂肪酸エステル	8
(2) パラフィンワックス	8
(3) インパラフィン	残量
(4) 頽料	1.0
(5) アサヒガード5%処理ナイロン纖維 (3D、1mm) (注1)	3

(6) 香料

適量

(注1) : 前記と同じ

【0024】 (製法)

A. (3) の一部で (4) (5) を均一分散させる。
 B. (3) の残部と (1) (2) (6) を加熱混合す

実施例6 リキッドアイブロウ

(处方)

(1) ポリメタクリル酸 2
 (2) トリエタノールアミン 2. 5
 (3) プチレングリコール 3
 (4) 塩化ナトリウム 0. 5
 (5) 防腐剤 適量
 (6) シリカ 2
 (7) 顔料 8
 (8) アサヒガード5%処理レーヨン繊維 (1D、0. 5mm) 2

(注1)

(9) 香料

適量

(10) ポリアクリル酸エステルエマルジョン 40
 (11) 精製水 残量

(注1) : 前記と同じ

【0026】 (製法)

A. (1) ~ (5) (11) を混合し、加熱溶解する。
 B. Aに (6) ~ (8) を加え、均一分散する。
 C. Bに (9) (10) を加え、均一に混合する。
 D. Cを容器に充填して、製品とする。

【0027】

る。

C. AとBを均一に混合する。
 D. Cを容器に充填して、製品とする。

【0025】

(重量%)

2
 2. 5
 3
 0. 5
 適量
 2
 8

(注1)

適量

40
 残量

【発明の効果】以上詳述した如く、繊維をフッ素化合物で処理することにより繊維の分散性が向上し、その繊維を配合したアイマークアップ化粧料は瞼及び眉毛への繊維の付着均一性が向上し、従来問題とされてきた瞼及び眉毛への繊維の束付きや枝分かれ状の付着などの現象が改善される。このように、本発明のアイマークアップ化粧料は使用時の使用感、繊維の付着均一性等に優れた品質を有し、非常に有用である。